

第10回 日常診療経験交流会

参加者
募集中

日時 11月30日 日
10:00~16:10

参加費

会員・スタッフ無料

未入会歯科医師2万円

※午後の文化企画は無料でご参加いただけます

グランキューブ大阪10F

場所

(大阪府立国際会議場) 大阪市北区中之島5-3-51

【午前の部】10:00~ 分科会 ①医科外来 ②在宅医療 ③自由題 ④歯科
第4分科会「日常診療における工夫と実践（歯科）」

発表時間	演題発表者 (敬称略)	演題タイトル
10:00~10:20	池尻 良治	睡眠時無呼吸をコントロールする事で認知症、うつ病の予防
10:20~10:40	田邊 美樹子	セロトニンとオーラルフレイル~歯科臨床に活かす知見と実践~
10:40~11:00	福原 稔	障害者への半構造化インタビューから 「口腔ケアによる心理的支援のあり方」を探る
11:00~11:20	齋賀 史郎	力士のマウスピース、その経緯
11:20~11:40	西川 眞二	歯科臨床40年で出会ったfunnyな出来事、interestingな人々 多くのcaseを紹介します
11:40~12:00	平尾 清司	院内感染対策費用（歯科）についてのパイロット調査

【午後の部】13:15~

口内・腸内細菌の意外なお仕事－健康長寿への道－



「口から始まる健康寿命
～口内フローラ～」

講師

植野 高章 氏

(大阪医科大学 口腔外科教授)

口腔内細菌叢（≡オーラルマイクロバイオーム）の研究は、口腔内の微生物環境がヒトの健康にどのような影響を及ぼすのか、つまり、口腔健康の維持が健康寿命をのばすことにどのように貢献することを解明していくであろう。口腔の健康を担う歯科医療においても口腔細菌叢の研究は広がりつつある。もともと歯科治療は微生物との戦いであったが、世界に類を見ない超高齢社会をむかえた日本が、世界に先んじて口腔健康と健康寿命延伸を展開していくことは新たな歯科医療のあり方の幕を開けることが期待できる。この講演から歯科医療の新たなゴールをお伝いできれば幸いである。（抄録より概要紹介）



「ここまでわかってきた
腸内細菌と健康の科学」

講師

入江 潤一郎 氏

(関西医科大学 糖尿病科 診療教授)

近年、細菌の遺伝学的解析技術の進歩により、生物に共生する細菌の構成が容易に分かるようになってきた。人体においては、体表の部位毎に共生する細菌が異なり、また個人差も認められること、その共生する細菌叢は個人で概ね保存されていることなどが明らかにされている。

口腔から肛門までの腸管に共生する腸内細菌にも個人差が認められ、その差異が宿主であるヒトの疾病発症に関与していることが報告されている。腸内細菌へ影響を与える介入としては、やはり食がもっとも重要である。腸内細菌の機能を理解し、食が宿主であるヒトに与える影響の理解も進んでいる。

本講演では、疾病の治療と予防、また健康増進について腸内細菌の視点から解釈を試みたいと思う。（抄録より概要紹介）

お申込み

右記のQRコードからお申込みを

お弁当（1,600円）が必要な場合は11月17日〆切 保育（無料）申込必須



主催

大阪府歯科保険医協会 / 大阪府保険医協会

TEL 06-6568-7731

FAX 06-6568-0564